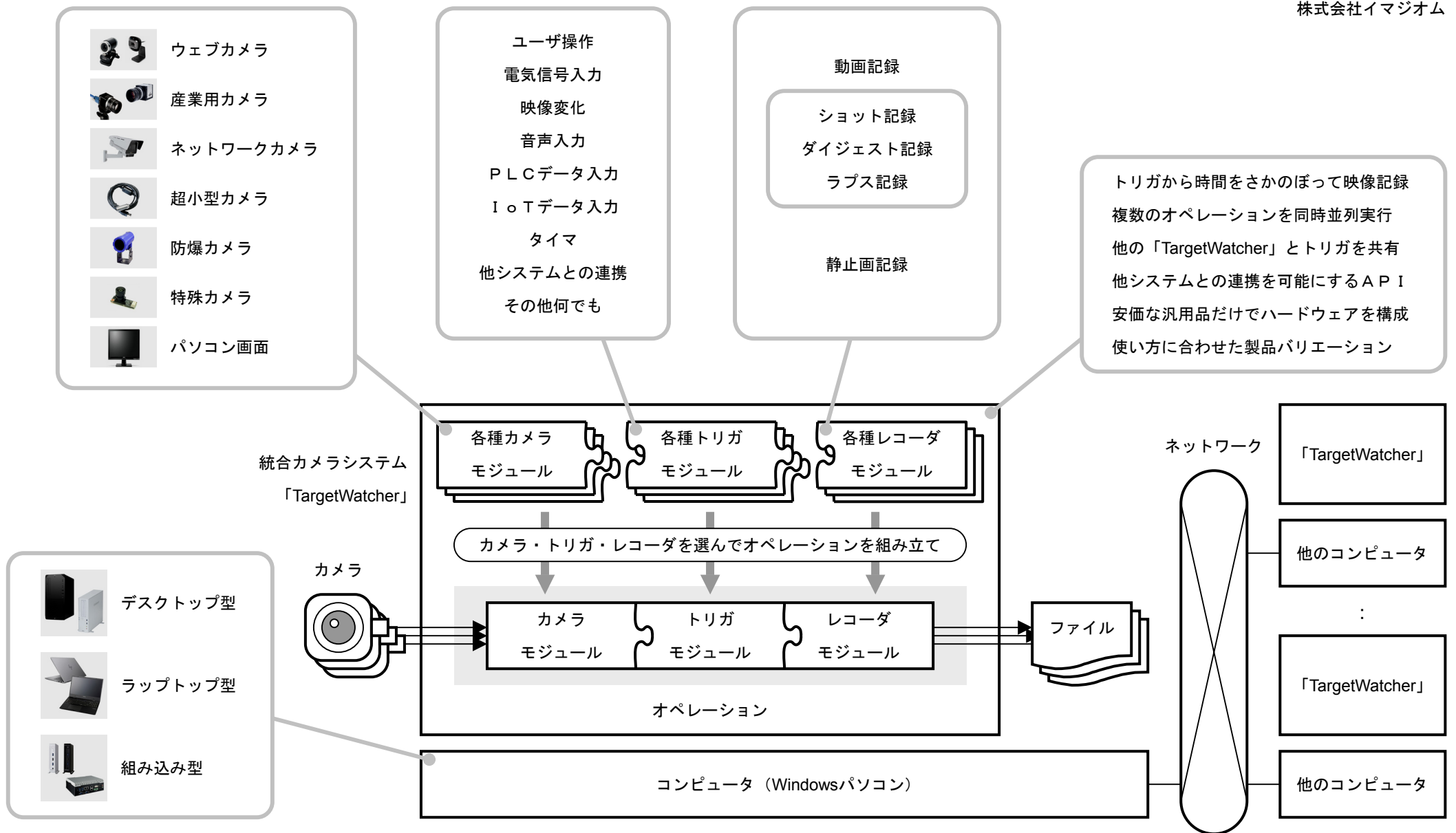


統合カメラシステム「TargetWatcher」の仕組み 早わかり

2026年6月20日

株式会社イマジウム



■選べるカメラ

市販のいろいろなカメラを利用することができます。また実際のカメラだけでなく、制御盤などのパソコン画面（スクリーンショット）をカメラ映像と同様に扱い、その変化を記録することも可能です。

■選べるトリガ

パソコンで取り扱うことのできるあらゆる事象をトリガとして使うことができます。必要なトリガがなければ、新しいトリガモジュールを開発して使えるようにするサービスも用意しています。使いたい場所でトリガがかけられないという心配はありません。

■選べるレコーダ

トリガごとの記録方法やタイミング、記録する映像（チャンネル）の数などが異なる各種のレコーダを用意しています。用途・目的に応じて最適な記録方法を選び、映像の扱いやすさと品質を両立させることが可能です。

■選べるパソコン

「TargetWatcher」はWindowsパソコンをベースとするシステムです。本体のパソコンには多数のカメラやトリガ機器がつながるデスクトップ型パソコン、持ち運びやすいラップトップ（ノート）型パソコン、設置場所をほとんど取らない組み込み型パソコンが選べます。

■トリガから時間をさかのぼって映像記録

カメラの映像を一時的に記憶する大容量の「フレームメモリ」を内蔵しています。トリガのかかった時刻から時間をさかのぼり、それよりも前の映像を記録することができます。

■複数のオペレーションを同時並列実行

バイキング方式でカメラ・トリガ・レコーダの3種類のモジュールを選び、さまざまな撮影記録動作「オペレーション」を組み立てることができます。さらには複数のオペレーションを作り、同時に動作させることも可能です。

■他の「TargetWatcher」とトリガを共有

ネットワークで接続された他の「TargetWatcher」とトリガをやり取りすることができます。一つのトリガを複数の「TargetWatcher」で共有することにより、多数のカメラを使った同時記録も可能になります。

■他システムとの連携を可能にするAPI

他のソフトウェアやシステムからトリガをかけたり、ファイルに記録した映像を他のソフトウェアやシステムに転送したりするAPI（内部インタフェース）を備えています。撮影記録機能を持つカメラシステムを短期間で構築したり、高度に拡張したりすることが可能です。

■安価な汎用品だけでハードウェアを構成

「TargetWatcher」のハードウェアには、特殊で高価な開発品を使わず、安価な市販品だけを使っています。過酷な使い方によって汚れたり傷んだりしても、ハードウェアを買い替えればすぐに新品に戻ります。

■使い方に合わせた製品バリエーション

普段は使わないがたまには使うという方、一人で多くの「TargetWatcher」を運用したい方、複雑なシステム構成やオペレーション（撮影記録動作）が必要ない方……。お客様それぞれの使い方や制約に合わせて、無駄のないライセンスプランやシステム構成を提案します。

以上